

本願寺住持 存如 在判

六月廿五日。有坂清村、鳳至郡總持寺に、月泉和尚粥料所の下地預狀を差出す。

【總持寺文書】 鳳至郡

八五一

(卷上書)  
月泉粥所下地預狀

預申在所之事

町野庄和住村松田殿知行五ノ田四百刈、御年貢伍貫文、毎年八月中ニ櫛比之總持寺に沙汰可申候。萬一不沙汰候者、田地之事者寺家之御計可爲候。其時一義之子細不可申候。仍爲後日預狀若件。

于時永享拾壹年己未六月廿五日

同和住住人 有坂清村 在判

永享十三年

辛酉

嘉吉元年

二月十七日 紀元二一〇一  
改元

二月廿七日。和田信章、鹿島郡永光寺に、同寺佛殿の修理田を寄進す。

【永光寺文書】 鹿島郡

八五二

寄進 洞谷山佛殿修理田之事

合肆佰五拾刈者 坪付在別紙

右彼佛殿者、祖父紹賢爲(中)仲興檀那奉建立者也。然而末代爲修理、彼田地賣券坪付お相副、永代奉寄進處也。仍爲後證寄進之狀如件。

永享拾三年辛酉二月廿七日時正

(和臣)  
藤原朝臣信章 在判

（藤原信章の和田氏なることは、寶徳二年八月及び寛正四年五月二日の條に見ゆ。）

六月朔日。沙彌某、珠洲郡高座宮別當高勝寺に方上保の下地を寄進す。

【須須神社文書】 珠洲郡

八五三

寄進

能登國鈴郡方上保庶子分高勝寺下地事

合陸段者 在所新保田内

右彼田地者、雖爲先方勘落、任往古支證旨所令寄進也。

然者毎日佛供灯明無懈怠、并爲全修造等、殊者可致長日御祈禱精誠。聊有不法懈怠者、可被改易者也。仍寄進狀如件。

嘉吉元年辛酉六月一日

沙 彌 在判

高勝寺住持

九月廿九日。幕府、攝津滿親の所領加賀郡倉月莊に制札を與ふ。

【美吉文書】 武藏

八五四

禁制

(攝親)  
攝津掃部頭知行分加賀國倉月庄

右軍勢甲乙人等、不可致亂入狼藉。若有違犯之輩者、堅可處罪科之由所被仰下也。仍下知如件。

嘉吉元年九月廿九日

(細川持之)  
右京大夫源朝臣 在判

十二月廿四日。幕府、攝津滿親をして、富樫泰高の被官山川家之に合力せしむ。

【美吉文書】 武藏

八五五

【永光寺文書】 鹿島郡

八五二

寄進 洞谷山佛殿修理田之事

合肆佰五拾刈者 坪付在別紙

右彼佛殿者、祖父紹賢爲(中)仲興檀那奉建立者也。然而末代爲修理、彼田地賣券坪付お相副、永代奉寄進處也。仍爲後證寄進之狀如件。

永享拾三年辛酉二月廿七日時正

(和臣)  
藤原朝臣信章 在判

（藤原信章の和田氏なることは、寶徳二年八月及び寛正四年五月二日の條に見ゆ。）

六月朔日。沙彌某、珠洲郡高座宮別當高勝寺に方上保の下地を寄進す。

【須須神社文書】 珠洲郡

八五三

寄進

能登國鈴郡方上保庶子分高勝寺下地事

合陸段者 在所新保田内

右彼田地者、雖爲先方勘落、任往古支證旨所令寄進也。

本折但馬入道父子打入加賀國云々。不日合身力山川(家之)筑後入道、可被致忠節之由所被仰下也。仍執達如件。

嘉吉元年十二月廿四日

(細川持之)  
右京大夫 在判

(攝親)  
攝津掃部頭殿

嘉吉二年

壬戌

紀元二一〇二

八月十三日。家好、珠洲郡高座宮別當高勝寺に、下地を寄進す。

【須須神社文書】 珠洲郡

八五六

奉寄進下地之事

合五十刈 在所坪尾  
免田

右件下地者、高座宮之御寶前ニ寄進申處也。たと一紙半錢之(寸)候共、作事のがうりよくたるべく候。心中所望、息災延命之故也。仍爲後日之寄進狀如件。

嘉吉二年八月十三日

家 好 在判

嘉吉三年

癸亥

紀元二一〇三